

明治末河原子町の概況

明治42年5月25日付『いはらぎ』新聞

〔漢字・仮名の表記は原文のまま。句読点を補った。ルビは原則外したが、一部に残した〕

●河原子だより 河原子町の繁昌が一に漁業、二に海水浴場、三に瓦製造所に依るは云ふ迄も無く候。第一漁業は昨今鮪鰹の漁期に入り日々相應の漁獲ありて稍賑況を呈し申候。第二の海水浴旅館は南より位置順に申せば坂本屋、永野屋、豊榮樓、見崎屋、大谷館、樂遊樓、泉屋、眞砂屋、岩崎樓の九軒にして、海水浴旅館紹介を設立しあり。昨年は岩崎樓主梅原郁太郎、見崎樓主友部丑松氏取締なりしが、本年は大谷館主大谷五郎次郎、豊榮樓主鈴木光明兩氏に更迭仕候。新聞雜誌廣告寄附金其他同業者全体に關する事項は大小となく一々會合協議の上決定致居候へども、會議の際は何分にも總員の出席無き爲めに問題にて再度會合する事もある由。尚又出席者にして種々苦情を唱へ脱退を

望むものなどありて取締もほとほと閉口し、毎度妥協の上辛うじて今日迄経過し來れる趣に候。第三河原子産の瓦は古來より有名にして松田教藏氏の如きは熱心研究の結果一種獨特の專賣品を製造し、第三回内國博覽會の有功賞を得たり。松田氏の外に海野秀吉、塙友藏の兩氏あり。製品額と金高は曾て報道せる如くなるが、販路は福島縣泉地方第一とせり。新道は昨今工事終了を告げ近々開通式舉行可仕候。學校新築は昨今屋根瓦を葺終り内部の造作も本月中には終了すべく、外觀と云ひ構造と云ひ郡内一二の大規模に候。旅館は昨年の浴客五六十名（千カ）にして、何れも來夏季の準備に忙殺せられ居候。就中岩崎樓は入營中の若主人昨年十二月歸宅し昨今は三階建大規模の別館建築中にて大々的繁忙を極め居れり。樂遊樓は常に上客尠からずと、大谷館は曾て本紙成功帳に報ぜしが質屋、專賣鹽指定引取人、雜貨商を兼ね、蓄財の途に長じいろいろ公共事業に盡瘁しつゝあり。最後に旅館に注文したきは飲料水の改良、呼鈴の改良、便所内の樂書防止、溫浴場改良擴張等に御座候。